

KOFU21

Chartered 1990
甲府21ワイズメンズクラブ

THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A.
THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21



2025 年 08 月 05 日 (火) 発刊

編集長 野々垣和宏

〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目10-7
山梨YMCAGローバルコミュニティセンター

☎055-235-8543 fax055-235-8553 Mail kofu21@googlegroups.com

国際会長	エドワード・オン(シンガポール)	「信念、愛、行動」 (Faith, Love, Action)
アジア太平洋地域会長	田上 正(熊本むさし)	「信念と愛を持って行動しよう!」 (Act now with faith and love!)
東日本区理事	山下 真(十勝)	「ワイズのらしさ再発見」 (Rediscovering Y's Uniqueness)
あずさ部部長	山口 直樹 (東京武蔵野多摩)	「垣根を低くし、活発な活動を」
甲府21クラブ会長	水越 正高	「35周年で育む会員の絆と、青少年の未来を創るクラブへ」 (Connecting the Next Generation)

甲府21ワイズメンズクラブ

2025 年 8 月会報

今月の強調テーマ

戦略 2032

今
月
の
聖
句

「あなたがたは、地の塩である。」
「あなたがたは、世の光である。」
マタイによる福音書 5 章 13～14 節

選者・荻野 清

8月 巻頭言

甲府 21 ワイズメンズクラブ 会長 水越正高



日頃よりクラブ活動への温かいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

7 月 6 日、私たちは韮崎にある「銀河鉄道の森」にて、ユース世代への支援活動を行いました。子どもたちが自然の中で学び、身体を動かし、自ら考えるこの体験は、彼らの心と体の健やかな成長にとって非常に大切な時間となりました。近年、日本でも「森のようちえん」と呼ばれる自然体験型の幼児教育が注目されています。これは北欧で始まった教育スタイルで、自然の中で子どもたちが自由に遊び、学ぶことを通して、「生きる力」や「考える力」を育むことを目的としています。日本では 2000 年代から広まり、現在では全国に 200 か所以上の施設が存在しています。森のようちえんでは、子どもたちは雨

の日も風の日も森の中で遊びます。その体験を通じて、創造力、挑戦心、協調性、自己肯定感など、机上では学べない多くの学びが得られることが、近年の研究でも明らかになっています。

一方で、こうした自然体験や学びの機会に、すべての子どもが平等にアクセスできるわけではありません。いわゆる「体験格差」と呼ばれる問題です。これは、家庭の経済状況や住環境、保護者の意識によって、子どもたちが得られる経験に大きな差が生まれてしまう現状を指します。最近の調査では、低所得世帯の子どもの約 3 割が学校外の活動や自然体験をほとんど経験しておらず、進学や将来の選択肢にも悪影響を与えていることが示されています。このままでは、体験格差が学力格差や所得格差へとつながり、いわゆる「貧困の連鎖」が固定化してしまうことが危惧されています。

こうした課題を少しでも改善したいという思いから、私たちは今年度の子どもゆめ基金事業として、「銀河鉄道の森」での自然体験活動を計画しています。すべての子どもたちに、豊かな自然と触れ合う体験を提供し、自ら学び、成長する機会を届けたいと考えています。もちろん、初めての挑戦の中で失敗もあるかもしれませんが、しかし、失敗や挑戦こそが、子どもたちにも、私たち大人にも必要な学びであると信じています。

クラブメンバーと力を合わせ、丁寧に準備を進め、子どもたちの未来に少しでも良い影響を与えられる活動を実現したいと思います。引き続き、皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2025 年 8 月第一例会プログラム

2025.08.05 (火)

18:30~

山梨 YMCA 3 階大澤英二記念ホール

8 月第 1 例会プログラム

■2025 年 8 月 5 日 (火) 18:30 ~

■会場: 山梨 YMCA 3 階 大澤英二記念ホール「ベテル」

司会 山口 了

1. 開会点鐘

水越正高会長

2. ワイズソング・ワイズの信条 奏楽

杉田博子ワイズ

3. 今月の聖句・一言

荻野 清ワイズ

5. 会長挨拶、ゲスト紹介

水越正高会長

6. ハッピーバースデー

7. ワイズディナー

8. 会員卓話

溝口秀男ワイズ

9. YMCA 報告・諸報告

10. YMCA の歌

11. 閉会点鐘

水越正高会長

7 月第 1 例会報告

書記 佐藤 利之

2025 年 7 月キックオフ例会報告

・日時 2025 年 7 月 1 日 (火) 18:30 ~

・会場 山梨 YMCA 3F

2025 年 7 月のキックオフ例会が山梨 YMCA 3F ベテルで開催されました。ゲストは、あずさ部長山口直樹さんと山梨 YMCA の中田総主事の 2 名でした。

定期総会では、輿水直前会長が議長となり、2024-2025 年度の事業報告及び決算報告がなされました。満場一致で承認され、輿水年度の締めとなりました。次に水越新会長が議

長となり、「35 周年で育む会員の絆と、青少年の未来を創るクラブへ」という力強い今年度のテーマを基に 2025-2026 年度の事業計画案及び予算案を発表し承認されました。

さて、このキックオフ例会では、1 名の新入会員が誕生しました。原 孝一朗ワイズです。今後の当クラブでのご活躍を期待します。その後の懇親会では、後藤ワイズの食前感謝、山口直樹あずさ部長の乾杯で宴に入り、ゲストスピーチとして、山梨 YMCA 中田総主事から現状の YMCA と共にユース活動における甲府 21 クラブの支援に感謝のお言葉をいただきました。

2 時間半の長丁場でしたが密度が濃く素晴らしい今年度のスタートをきることが出来ました。

<8 月の誕生者>

<メ>

輿水 順雄 (8/6)

藤原 琢也 (8/7)

平賀 佳雅 (8/23)

飯田 剛 (8/30)

<メネット>

<敬称略>



あずさ部評議会報告 7/26

報告：水越正高



松村禎 並木 仙洞田 小倉 菰刈 金子
小澤公 寺田 佐藤重 野々垣 興水 佐藤節子 榎本
標 野々垣々 御園生 小口 森本
水越会長 宮内 渡辺 山口部長 ピーター 大和田 小山

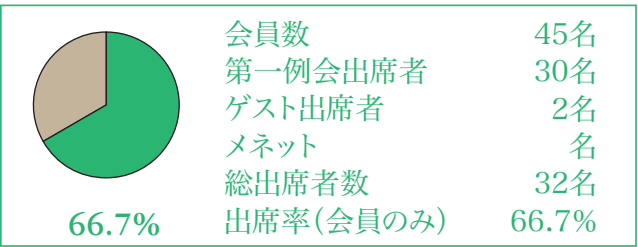
- 日時：7 月 26 日午前 10 時半～
- 場所：東京山手 YMCA
- 2025 年度あずさ部評議会
- ▼30 名の参加議決権者と 15 名の委任状提出により、成立が宣言されました。甲府 21 からは、寺田、佐藤重、小澤公、野々垣健五郎&メ、水越、松村禎、興水の 7 名（敬称略）で出席致しました。
- ▼審議では、第一号議案「2024-2025 年度会計決算承認の件」が審議され、田中克男直

前会計からの報告、望月勉前監事からの監査報告の後、賛成多数で承認されました。

▼続いて、山口部長からの第二号議案「2026-2027 年度次々期部長クラブ推薦の件」、第三号議案「次期監事の決定方法について」も、いずれも賛成多数で可決されました。

▼議案審議後はクラブ会長による報告とアピールタイムがあり、その後、近隣の「三国志」へ移動し、和やかな懇親会が開催されました。

< 7 月例会出席者 >



*ゲスト出席者は、山梨YMCA総主事中山純子様、あずさ部部長 山口直樹様の2名

会計報告

会計 山口 了

[会計報告] 2025 年 7 月末現在			
項目	ニコニコ	バザー	トータル
目標値	250,000	100,000	350,000
7月の合計	25,800	0	25,800
7月末迄累計	25,800	0	25,800
達成率	10.3%	0%	7.37%

*クリスマス例会ではオークションがなくなりました。

アジア太平洋地域大会 2025

アジア太平洋地域大会 2025 in 熊本
参加レポート

甲府 21 会長 水越正高

2025 年 8 月 1 日～ 3 日までの 3 日間、熊本市にて「アジア大会 2025」が盛大に開催されました。甲府 21 クラブからは松村禎夫、野々垣健五、飯田剛、佐藤重良、寺田喜長、薬袋勝、荻野清、水越正高、輿水順雄の 9 名と、取材でブリテン委員 2 名（野々垣編集長、事務）の合計 11 名が参加しました。アジア太平洋地域の仲間が一堂に会し、国際交流と友情を育む大変意義深い機会となりました。

▼初日は、各国・地域のバナーが入場し、灯籠踊りや大津太鼓の迫力ある演奏で幕が開きました。熊本の伝統文化に触れつつ、国際会長とアジア太平洋地域会長の就任式（インスタレーション）も執り行われ、地域のつながりや支え合いの精神を改めて確認する機会となりました。

▼基調講演 京都パレスクラブの大野氏がラオスにおける YMCA ホテル専門学校設立に向けての経緯と国際支援の在り方について語られました。京都とラオスの関係を構築する中で、ラオスから象を 3 頭輸入（？）したことなど、すごいことをなさった話。感動です。深い学びを得ることができました。

▼ショートビデオコンテスト 甲府 21 クラブ小澤智之さんの作品がコミュニティ部門で優勝。壇上で表彰を受けるという誇らしい出来事もありました。

▼夜の晩餐会では、サプライズゲ



ショートビデオコンテスト受賞式

ストとして登場した「くまモン」が会場を盛り上げ、地元料理や地酒とともに交流の時間を楽しめました。



日本 YMCA 同盟田口総主事 & 山梨 YMCA 野々垣理事長

▼エクスカーションなど～私は、2 日目のエクスカーションに阿蘇の雄大な自然をめぐるツアーに参加致しました。熊本の原風景と地元の暮らしに触れ、自然との共生の大切さを体感しました。（残念ながら、火口をのぞくことは出来ませんでした。）夜は再び晩餐会が開かれ、郷土料理を堪能しつつ、熊本市内で開催されていた「火の国まつり」を見学。5000 人が踊り歩く「おてもやん総踊り」は圧巻で、熊本地震からの復興と地域の再生を象徴する熱気に満ちたひとときでした。

▼日曜礼拝 3 日目の日曜日は、礼拝で始まりました。ジョーセ・ヴァルギース国際書記長が国際協会のハイライトを発表。そしてユースの成果発表です。AYC*の実行委員として参加していた風間さんが壇上で AYC の発表です。「平和について考える」をテーマにディスカッションが行わ



山梨 YMCA ユース 風間奈月さん

れた、ということ。10 人近いユースが、自分の言葉で平和について語り、その熱意と取り組みに、会場全体から温かい拍手が送られました。

三日間を通して大きなトラブルもなく、熊本の地で友情と国際理解を深め、新たなスタートを切る象徴的な大会となりました。熊本の魅力と熱気に触れた素晴らしい日々を胸に、それぞれ帰路につきました。

▼会長になって初めての国際コンベンションへの参加ですが、やはりワイズメンズクラブの組織について強く実感したのは英語。公用語は英語ですから、基調講演（キーノート）も、就任式やユースの発表まで、全てが英語で進行です。唯一大西熊本市長が日本語で祝辞を述べてくださいました。私も英語は多少は使えますが、ここまでのレベルの英語にギャップを感じながら、気を取り直して学び直しをしたい、と思っています。

＊アジア太平洋地域ユースコンボケーション



少しお疲れ「阿蘇コース」
興水さん、野々垣さん



中田山梨 Y M C A 総主事



松村禎夫さん



水越会長、野々垣さん

＜アジア太平洋地域大会参加者数＞

＜大会ブリテン 1 号より＞

＜アジア太平洋地域＞

日本	409 名	AYC
(東日本区)	(90 名)	23 名
(西日本区)	(319 名)	(7 名)
フィリピン区	5 名	(16 名)
スリランカ区	3 名	3 名

(南東アジア区)

香港	18 名	
シンガポール	3 名	
タイ	10 名	5 名
台湾区	68 名	3 名

＜アフリカ地域＞

ケニア		1 名
ナイジェリア		1 名
ウガンダ		2 名
ザンビア	1 名	

＜ヨーロッパ地域＞

デンマーク	6 名	
ノルウェー	2 名	
スイス	2 名	
＜インド地域＞	11 名	
＜韓国地域＞	2 名	1 名

＜ラテンアメリカ地域＞

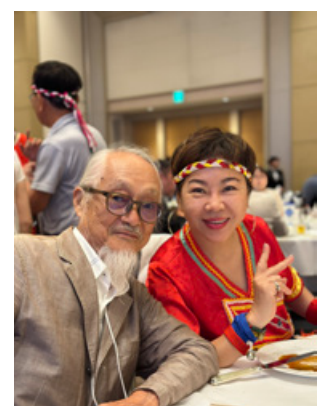
ボリビア	1 名	
＜USA 地域＞	3 名	

合計 544 名 39 名

総計 18 か国／地域 583 名



破顔一笑 飯田剛さん



葉袋勝さん（台湾チームと）

ロールバックマラリア



アジア太平洋地域大会分科会では、ロールバックマラリアについて、京都パレスクラブ川上孝司ワイズによる発表がありました。マラリアは、ウイルスによるものではなく、マラリア原虫が原因。
 <野々垣和宏>

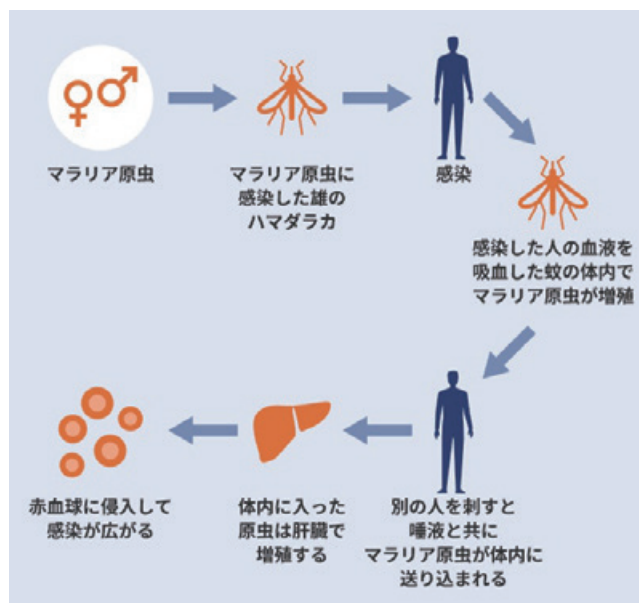
マラリアは、マラリア原虫に感染したハマダラカという種類の蚊に刺されることで感染する病気です。

私達を取り巻くあらゆる環境問題の中でワイズメンズクラブ国際協会が引き続き取り組むこととなったロールバックマラリア運動を今期西日本区においても推進していきます。ワイズメンズクラブ国際協会としてマラリア対策としてロールバックマラリア運動 RBM に国連 NGO として参加しています。

世界ではいまだマラリアにより多くの尊い生命が奪われています。運動の内容としましては、皆様から頂いた貴重な寄付金は防虫蚊帳を含むマラリア対策パッケージを購入するための資金とさせていただきます。この運動は我が協会も含め国連・ユニセフ・国際赤十字・WHO などが運動に参加しています。この運動により世界の衛生環境に大きく貢献しています。

マラリアは、マラリア原虫に感染したハマダラカという種類の蚊に刺されることで感染する病気です。分布を見ると、赤道付近の国々では広範に変延していて、感染のリスクが多くの国に及びます。マラリアは、世界の子どもたちの命を奪う 3 大疾病のひとつとされています。マラリアに感染し、命を奪われる人の数は年間 66 万人。マラリア予防には殺虫剤処理をほどこした蚊帳の使用が不可欠であるとユニセフは発表しています。ワイズメンズクラブ国際協会を含む多くのパートナー団体は各国政府に、長期間使用できる殺虫剤処理をほどこした蚊帳 (ITNs) を無料で配布することを推奨し、支援しています。2 人に 1 帳の割合で蚊帳が使えれば、マラリアによる子どもの死亡は少なくとも 20 %削減できるとされます。この取り組みに関し西日本区全体で取り組みたく思います。要請がございましたら、各例会等でアピールなどさせていただきます。ぜひ皆様のご協力をお願いいたします。

温暖化により媒介蚊ハマダラ蚊の生息域が拡がり、その密度が高くなるのを防ぐのは大変困難です。また、コロナ禍によりマラリア運動の低迷のあおりを受け。いったん減ってきていた死亡者数も増え、今一度一層の活動を進めていかなければなりません。ワクチンの開発等も進んでいます。まずは刺されないことが大切です。蚊帳を購入するための皆さんの募金活動が大変大きな力となっています。私たちに蚊帳が必要です。



今後の予定

<8 月>

1~3 アジア太平洋大会@熊本
 5 日 第 1 例会 18:30~

<9 月>

5~7 ユースボランティアリーダーズフォーラム@朝霧高原
 20 日 第 1 例会 ぶどう棚下例会 10:00~
 23 日 子どもゆめ基金銀河鉄道デイキャンプ

<10 月>

7 日 第 1 例会
 21 日 第 2 例会
 25 日 杉田博子ソプラノリサイタル

<11 月>

3 日 山梨 YMCA バザー
 ベビーカーコンサート
 8 日 後藤メン 八王子例会で卓話 13:00~
 24 日 子どもゆめ基金銀河鉄道デイキャンプ

<12 月>

6 日 第 1 例会「クリスマス例会」
 16 日 第 2 例会

大人な徘徊 第 2 話 ～中国 2012 年 2 月～



薬袋 勝

時より街並みが大きく変化しており、小綺麗になっておりました。

歩数：180,915 / 15,076 歩

距離：135.2 / 11.3Km



下町のにぎわい（香港）



聖ポール天主堂跡（マカオ）



蜀の古道、剣関門（四川省）

編集長野々垣和宏です。魏を倒すため、天才軍師・諸葛孔明が四川省の成都から、約 1000 キロの道を進む。途中、大巴山脈、秦嶺山脈など巨峰を越えて行く。大絶壁の側壁をえぐって、栈橋が架けられている。まるで、天空に到るような栈橋、栈道である。この栈道は数キロ続くという。岩を削り、大量の板材を用意して、栈橋を掛ける。そこを魏を倒す蜀の大軍が通過する。人、馬、荷車、食糧など、相当な負荷がかかる。ということを読んだことがあります。歴史を訪ねる旅はいいですね。

日	徘徊場所	宿泊地
8-11	成田、香港、マカオ	香港
12-13	香港、成都	成都
14	蜀古道：雲岩寺、李白故郷	江迪
15-16	蜀古道：剣門関、七曲山	成都
17-18	成都、北京	北京
19	北京、成田、甲府	

中国（2012 年 2 月 8 日～ 19 日）

中国は香港を含め、5 回通算 2 か月以上、仕事で滞在しましたが、今回は仕事抜きで徘徊計画が立てられました。

英国より返還され、中国的になった香港とマカオをたっぷり徘徊しました。復帰以前に使われていた広東語より、プートンファ（標準語）が主流になっており中国化が進んでいるのが感じられました。マカオは、初めての訪問地、ポルトガルの租借地だったためポルトガル語が使われており、耳に入り懐かしい思いをしました。

香港より旧友の曹さん家族の住む成都へ、久しぶりに本格的麻辣な四川料理を堪能しました。曹さんの案内で、三国志で有名な蜀の古道を徘徊しました。この古道は、諸葛孔明が天下統一のため、魏の国へ出兵するため作られた道です。危険なため、山の中腹に見える古道の徘徊はしませんでした。観光用に開放された古道を徘徊し、孔明さんの影を感じてきました。

帰りに立ち寄った北京は、10 年以前の訪問

ペンリレー

趣味のゴルフについて

原 孝一朗



高校時代の野球部同級生・先輩とのゴルフコンペでの記念写真 筆者 右端

ゴルフを本格的に始めて3年半が経ちました。きっかけは、コロナ禍で県内の旅行会社の代表が集まって山梨県旅行業協会として県の事務局対応をした際、一緒に働いていた他旅行会社の方から誘われたのがきっかけです。

その方はシングルプレイヤーでもあり、またマッスルバックの「ベンホーガン」のアイアンを使っていてプレースタイルが非常にかっこよく憧れてしまいました。

それからというとな暇さえあれば、ゴルフ動画視聴やゴルフショップ通い、練習場、ラウンドとゴルフ漬けになってしまいました。

2021年の11月がスタートであっという間の3年半が経ちました。

今までは自分でゴルフ用品など買うことが無かったのですが、お金を使うものはほとんどゴルフに関係しているものになりました。

現在進行形でまったく飽きることなく月に2回程度ラウンドもしながら練習も続けています。良いスコアを出すことも目標ですが、一番の収穫は、学生時代の友人・先輩後輩・会社の同僚や新しい仲間が増えたことです。私はアルコールが弱く「仲間と飲みに行く」機会がほとんどないのですが、ゴルフを始めたことで一日中仲間と一緒に野山を歩きながら、食事をしながら遊ぶことができるようになりました。

このことが何よりの収穫だと思っています。これからも健康寿命に気を付けながら、楽しい芝刈り（ゴルフ）を続けていきたいと思っています。

◆YMCA便り◆

「AYC2025 ～ PEACE ～への参加」

総主事 中田 純子

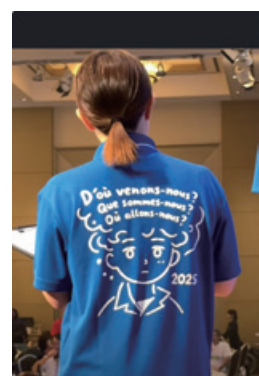
今年7月30日から8月3日まで、熊本YMCA阿蘇キャンプ場にて、ワイズメンズクラブ主催の「AYC2025 ～ PEACE ～」が開催されました。この大会は、多様な背景を持つ若者たちが集い、「私たちはどこから来て、何者で、どこへ向かうのか」というテーマのもと、語り合い、つながり合い、平和への具体的なアクションを模索する貴重な機会でした。ウクライナやガザで多くの若い命が奪われた混沌とした世界情勢を直視し、私たち自身が平和の担い手としてどのように役割を果たすのかを共に考えました。

この重要な大会には、山梨YMCA職員であり日本代表ユースとして活躍する風間奈月さんも参加いたしました。彼女は若い世代の声を力強く発信する機会が与えられ、風間さんの情熱と行動は、多くの若者たちに希望と勇気をもたらし、私たちの活動に新たな活力を与えてくれたことだと確信いたしました。

私も山梨YMCA総主事としてワイズメンズとして、このAYC2025に参加し、若者たちと共に学び、互いの理解を深めながら平和を築くための具体的な行動を共に考える機会が与えられ、地域と国際社会の架け橋となるよう、皆さまと力を合わせて歩んでまいりたいと思います。

また、嬉しいことに、私たち甲府21ワイズメンズクラブ小澤智之さんの制作されたビデオが、ワイズメンズクラブ国際協会アジア太平洋地域主催のショートビデオコンテストで最優秀賞を受賞いたしました。応募作品は、山梨YMCAが韮崎市でキャンプ場として整備を進められている「銀河鉄道の森プロジェクト」の映像です。これは地域社会への貢献を力強く伝えるものでした。ワイズメン全員が一丸となって取り組んだ成果が、広く認められたことに喜びと共に、深い誇りを感じております。

山梨YMCAは4月に開設のフリースクール「わいわいクラブ」の利用が3名に増え、個を大切にしながら安心して過ごせる第3の居場所づくりを進めています。地域の子どもの未来を育むため、引き続き地域の皆さまと共に、より良い支援を目指してまいります。



「私たちはどこから来て、何者で、どこへ向かうのか」という問いを胸に、小さな一歩一歩を積み重ねることで、やがて大きな平和への道が開かれると信じています。ワイズメンズクラブと山梨YMCAは、これからも「人から人へ」の精神で、地域と国際社会の架け橋となる役割を果たしてまいります。